

教区だより

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

2016

9月

第334号



2 3

特集

「イスラムとは①」

～インタビュー アフガンから日本へ～ を掲載します

4

ざっ ぼう
雑 宝



～私を歩ませた言葉～

【筆者】近江第1組 蓮瑞寺 住職

吉田 剛 氏

5

連載

大乘仏教一釈尊観の深化^{しん か}一

《第5回》 ジャータカ物語の出現（1）

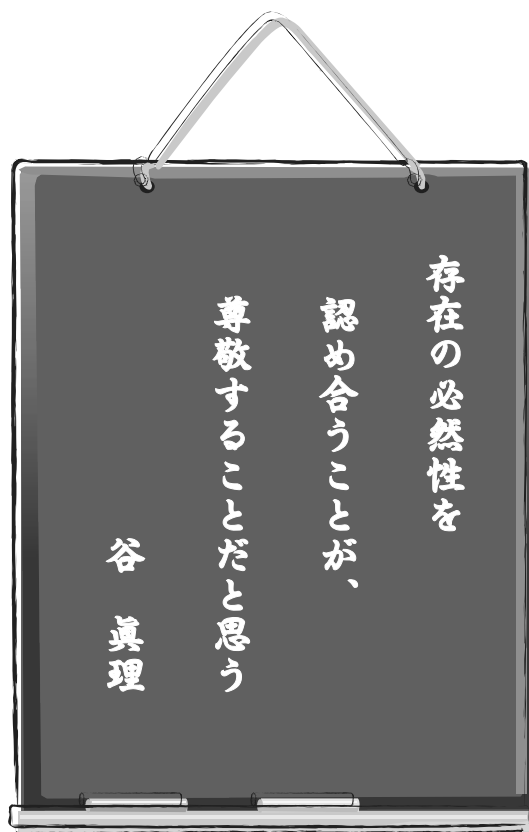
お だ あきひろ
織田 顕祐 氏

6

京都教区の動き

7

京都教区教化レポート（推進員協議会）



——特集「イスラムとは①」——

インタビュー アフガンから日本へ

時代、民族をこえて伝わった三大宗教に、仏教、キリスト教、イスラム教があります。キリスト教が受容される一方、イスラム教やムスリム(イスラム教徒)については、近年テロに関する報道の影響もあり、理解が偏ってしまっているのではないのでしょうか。留学生のムハンマド・セディックさんにインタビューしました。

ました。

なぜそんなに日本のイメージがアフガンでよいのですか。

一九五四年に戦争が終わってから日本がいろいろと支援しています。歴史から見てもアフガンの人は日本を尊敬します。

日本の技術はもちろんですし、日本の映画が訳されています。サムライの映画や明治の歴史に関するものもありました。そうしたメディアを通じての背景があります。

なぜ日本に來られ、今何をされていますか。

二〇一四年に來日して、今京都大学で学んでいます。パブリックヘルス(公衆衛生)を専攻し医学を勉強しています。

なぜ日本を選んだかという点、アフガニスタン(以下アフガン)では、日本や日本人に対して非常にイメージがいいんです。日本の文化もよく知られ、映画もよく見られて、イメージはとていいです。私もそうでした。多くの人は西洋、ヨーロッパに行きますが、私は日本に來

判所の判事になり、その後副首相になりました。

アフガンの生活はどうでしたか。アフガンでタリバン政権(イスラム過激組織)の支配下で起きていたことや奪われていたものがありますか。

タリバン支配下での生活は大変でした。テレビや音楽はすべて禁止です。そしてひげは男性は伸ばさなければいけないし、女性の学問は禁止です。学校では男性ばかりです。イスラム教の祈りも、必ず一日五回で、それをしないと罰せられます。苦しいものでした。

今でもタリバンの支配下で、小さな町では厳しいです。大きな町など、今は政府が変わったので、政府のおかげで女性が先生や医者になりますし、学問もでき、テレビも見れます。国全体ではなく、村々によって、その地方都市によって違ってきます。

どうしてタリバンの勢力がいまだに影響があるのですか。タリバンを支持する人々がいるのはなぜでしょうか。

それにはいくつかの理由があります。複雑な問題を抱えています。

タリバンの支持者にはドラッグ(薬物)の売人がいます。売ることはアフガン政府の方針には反するわけですが、タリバンの支配下では許されています。だから売る仕事を続けたいので



支持しています。

アフガンは多民族国家です。より他の民族より強くありたいと民族間の争いがあります。他民族が政府を支持するのなら、自分の民族はタリバンを支持することになります。

タリバンの支持者には貧しい人も多いです。軍に入ると、タリバンからお金が支払われるのです。タリバンの支配下で軍隊に入って働くほうが、政府からもう少し二倍三倍多いんです。タリバンの資金は、人を誘拐して身代金などで集めます。正しくない方法で一度にたくさん手に入れたお金です。政府よりはまとまった額がタリバンには入ります。それが兵士の給料になります。そうした循環になっています。

西パキスタンのヘルモントはヘロインの産地です。タリバン支配下で最も強い場所です。そのヘロインが世界の五割とも言われています。そうしたことも一つの側面ですが、非常に組織

も複雑です。だからタリバンを消滅させることができないし、支持が残っているのです。

そうした攻撃的なタリバンだけではなく、イスラムを信仰する多くの人は、信仰として平和的、穏やかだと思えます。イスラムの信仰としてはどうでしょうか。

アフガン全体とは言えませんが、少なくとも私や大多数の人は、タリバンのような攻撃的なグループは、イスラムの教義を極端な理解、解釈をして、自分たちの目的を達成させようと利用していると思っています。

私の父は、知事の仕事をしていました。私が幼い頃、タリバン時代の前にはムジャヒデという攻撃的なグループがありました。その人によって父は殺されました。私の家族もその攻撃的なグループの被害者です。

父亡き後、母も生活は貧しく苦しくなりました。その中でも、母はこう言っていました。「良いイスラム教徒であるために。嘘をついてはいけない。物を盗んではいけない。人を殺してはいけない」などと教えられました。イスラム教では、良い行いをするのが良いイスラム教徒である。

だから人を殺さない。だから盗まない。そうありたいと思っています。多くはそうです。タリバンなどは違う解釈をしています。それはイ

スラム教徒とは言えないと、私は思います。イスラム教徒は穏健で、平和的な人であり、信仰です。

セディックさんにとって、平和とは何でしょうか。

平和にも二つの側面があります。個人と社会の平和です。

個人的なレベルでは、平和であるには、良い行いをして、良い人間であることだと思います。良い人間が多く集まっていけば、平和な社会にもなります。

一方、社会的、政治的、教育の問題、民族やグループ間で衝突や軋轢あつれきが生まれます。

アフガンで衝突が始まったのは、一九七八年でした。衝突のあった中で、一九八〇年私は生まれ育ちました。だから平和の大切さを痛切に感じます。

そして平和であるためには、人は尊敬しあうことが大事ではないかと感じます。

自分はこの人よりもなどと考えて、優劣をつけたりしては平和などありえません。

個人でも、国家レベルでも、宗教、人種が違いう人ですが、尊敬し、認めあうということがとても大事だと思います。

雑 宝



近江第一組 蓮瑞寺 住職

吉田 剛

「もう三日で死ぬ」

お葬式の場合などで何度となく聞く言葉があります。「天国に行く」、「星になる」、「永眠する」、「旅立つ」など。これらは「死」という言葉 Avoiding 言い換えられたものです。「忌み言葉」と言われ、不吉な意味や連想をするので、「死」という言葉を使うのを避けるために用いられる表現です。『東海道中膝栗毛』の中には「めでたくなる」という表現もあります。いずれも日本語表現の豊かさを示すように思えますが、言い換えることによって「死」というものが曖昧になり、「生」のみが永遠に続くかのようです。誰かが亡くなっても死を語ることが出来ません。不思議なことです。

また、「もう死ぬわ」、「いつ死んでもええわ」とよくご門徒さんから聞く声です。その時に私は「いつ頃ですか?」と聞きます。そうすると少し間があった後で、たいがい「未だもう

ちょっと早いかな」という答えが返ってきます。体のあちこちに不具合が出て、病氣にもなる。

痛みや苦しいことに思いがいき、このような言葉が出てくるのだと思います。ところが、「いつ?」とはつきり期限を限定されて聞かれると、いきなり「死」が現実のものとして突きつけられ、避けてしまう。「死」は直視されず「忌むべきもの」として隠される気がします。

その時に思い出すのは百二歳で亡くなったお寺の前々坊守のことです。前々坊守は九十四歳を越えた頃から、本人の中で何故か年齢が止まってしまい、いつも年齢を聞かれると「九十四歳」と答えていました。女性はいつまでも若くいたいのだとみんな笑っていたのを思い出します。

そんな前々坊守を娘である前坊守は「この人は死ぬのを忘れたんとかがいますやらか?」と言いい、九十五歳を越えたある日、はつきりと「いつ死なはりますのんや?」と本人に聞きま

した。実の娘だから聞けることで、もしこれが姑^{しゅうとめ}に対して言ったのなら大変なことになります。それに対し、前々坊守は「もう三日で死ぬ」と笑って答えました。それからというもの、三日おきに「三日で死ぬ」、「三日で死ぬ」と言い続けました。

多分、本人の言う「三日」は「間もなく」ということではなかったかと思えます。しかし、三日おきに言うものなので、本当に「死ぬ日」が延びてゆくような不思議な感じがしました。ところが、亡くなる一ヶ月前にぴたりと「三日で死ぬ」が止まりました。それから少しずつ弱り始め、いわゆる「老衰」で百年を越える寿命を全うしました。

いつ死ぬのか誰にも分かりません。いずれ必ず死が訪れることを前々坊守は当たり前のこととして受け止め、避けてはいなかったのだと思います。他の言葉で誤魔化^{ごまか}さずにはつきりと「死ぬ」と語り、見つめていました。

今年は前々坊守の十三回忌の年になります。忘れがたい思い出です。



前回までに、仏滅後の仏弟子にとって「ブツダとは何か」ということと、「法とは何か」ということの二つが特に大きな課題であったことを述べました。これは後に整理された『阿含経』によって知ることができ、教理的・思想的な一面であると言えます。こうした仏弟子たちの直接的な課題とおそらく並行して、ブツダ釈尊が大悲の存在であることを物語によって表現するものが続々と生まれましました。それが「ジャータカ物語」です。

ジャータカとは、本生譚ほんせいだんとか本生経ほんせいぎょうと意識されますが、もとはインドの古い寓話ぐうわのこと

です。寓話とは、教訓的な内容を別の出来事をかりて説いたものです。むかし、こんなことがあったから、そういうことをしてはいけない、といったたとえ話のことです。仏教以前のインドにも、そうした古い寓話が人々の間で説かれていました。それが、仏教に取り入れられ、ブツダ釈尊が大悲の存在であることの理由として説かれるようになったのです。つまり、むかし釈尊はこのような善行を積み重ね、その結果ブツダになったのだという物語が沢山生まれたのです。

それらのもつとも古いものは、紀元前二世紀頃に作られたバールフットの仏塔の周りの柱や柵に彫刻された二十八の物語であると言われています。それらは現在、ニューデリーの国立インド博物館に移設されており、訪問すれば直接見ることができます。仏塔とは、ブツダ釈尊の遺骨を収めて礼拝の象徴としたものです。そして、その周りをジャータカ物語で囲んだのですから、そこには現在の遺骨と過去の善行物語によってブツダ釈尊の功德を莊嚴しょうげんしようとする、仏滅後の人々の信仰心を読み取ることができます。ブツダは、「何事も因縁によって成り立っており、それ自身として存在するものはない」という縁起・無

私の道理を説いたのですから、ブツダ釈尊の功德もまた過去の因縁によって成り立っていると考えるのが道理です。特に、ブツダの功德として人々が注目したのは、ブツダ釈尊の「大悲」の面でした。ブツダ釈尊が自身の課題（「苦」）を解決するだけなら、正覺を完成してそれで完了です。しかし、ブツダ釈尊のご生涯は、その後半の方が長く、ご苦勞も圧倒的に多かったのです。それは一体なぜかと振り返ってみれば、初めて教えを説いて（「初転法輪」しよてんぽうりん）以来、一貫して人々を苦しみから救済する、つまり大悲の実践じっせんという点に尽きるのです。こうしたブツダ釈尊の功德は一体何によって成り立っているのか、こうした点の探求がジャータカ物語を生んだのです。

初期のジャータカ物語は、むかしブツダとある動物だったとき、こんな自己犠牲を払って功德を積んだという筋の話が多いのですが、次第に内容・分量とも豊かになり、現在では合計五百四十七話がひとまとまりのジャータカとして伝えられています。この他にも個々の経典に説かれたジャータカが数多く存在します。ジャータカ物語の出現も釈尊觀の深化の一面を表していると言えます。

■ ■ ■ 京都教区の動き ■ ■ ■

推進員教習懇談会

五月二十三日(月)、昨年度に引き続いて「推進員教習懇談会」が教区会館二階大講堂にて公開で開催された。

組独自で推進員教習を開催されている組の教化担当者が集い、互いに情報交換を行い、更なる推進員教習の充実をはかるためのもので、助言講師に藤井慈等氏(三重教区慶法寺住職)を迎え、近江第一組、近江第六組、近江第二十六組の方々から、取り組みについての報告を受けた。

各組それぞれにテーマを持っておられ、それに基づいた取り組みについて熱心に話していただいた。

(門徒・推進員研修小委員会委員

澄川 八紘)

第三回同和協議会学習会

六月六日(月)、京都教区会館大講堂において、同和協議会主催の「第三回同和協議会学習会」が開催された。講師は岩寄徹氏(東京教区同和協議会会長)。講題は「親鸞とその周辺」。

岩寄氏は、親鸞聖人を研究された方々の実

績を踏まえて、歴史的な事実を掘り起こした

うえで、正確に親鸞聖人の実像に迫ろうとされた。長年社会実践をされ、差別問題について学びを深められるなかで、独自の理論をもたれている。そういう意味で、今までなかった視座をいただいた研修会であった。

講義を通して残された課題について同和協議会運営委員会で検討していく予定である。

(同和協議会運営委員 谷 大輔)

女性対象声明会

去る五月十七日(火)と六月十四日(火)の二回に渡り、教区会館において、教区准堂衆会主催による毎年恒例の女性対象の声明講習会が開催された。



講師は准堂衆会の東口真由美先生で、赤本の

の正信偈草四句目下、三淘念仏和讃、同朋奉讃式による念仏和讃等のご指導をいただいた。平常、慣れ親しんでいるお勤めだからこそ抜けがちになってしまうようなポイントをしっかり教えていただいた。全員で唱和すると、女性独特の柔らかいお声明の響きを感じられた。

(京都教区准堂衆会会員 堀川 史子)

二〇一五年度教化委員会総会

六月二十三日(木)、教区会館において、二〇一五年度教化委員会総会が開かれた。各小委員会より二〇一五年度の教化事業報告が行われた後、二〇一六年度の教化事業計画(案)が審議され、滞りなく承認された。

また、親鸞聖人御誕生八百五十年お待ち受けとして始まった、「拾学舎」「同朋の会サポートプラン」「誕生児初参り式サポート事業」の報告がそれぞれ担当する小委員会よりなされ、前年度の取り組みを踏まえ、引き続き参加を呼びかけていくことを確認した。

(駐在教導 梅溪)

京都教区教化レポート

【推進員協議会】

京都教区推進員協議会では、昨年度最も優先した課題として、推進員協議会未加入組への再訪問があります。これは二〇一四年度に新規事業として取り組みを開始したもので、その後の進捗の様子を確かめ実情を深く掘り下げて、将来の理想の姿につなげるためです。成果として、「推進員について理解ができた」「推進員養成講座を開始する」「同朋会運動の三本柱の一つに推進員教育があることの認識を得た」との回答をいただきました。

もう一つの課題として、推進員協議会役職者一泊研修会を遠隔地で開催することがありました。これは京都教区が広範囲で、互いに交流することが難しい状況であることから、お互いが御同朋・御同行として出遇うことを願いとして、昨年度は出雲組で開催いたしました。講師に藤島建樹氏（大谷大学名誉教授・出雲組圓浄寺住職）をお迎えし、「歴史を信仰の糧として」の講題で、インドでの釈尊誕生から中国を経て、日本に仏教が伝道されたことを教わりました。

（京都教区推進員協議会副会長 加藤 勉）

事務連絡

《住職任命》

二〇一六年六月二十八日付
近江第三組 覺成寺

高木 淳善
〔敬称略〕

《敬弔》

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

出雲組 専福寺前住職

二〇一六年六月十九日

近江第一組 法泉寺前坊守

二〇一六年一月八日

近江第三組 安養寺前坊守

二〇一六年六月二十六日

近江第二十五西組 長順寺前住職

二〇一六年八月一日

〔届出順〕

卯木 晃哲

九十七歳

〔敬称略〕

《平成二十八年年度熊本地震 救援金について》

本年四月十四日から熊本・大分の両県にわたって断続的に発生いたしました「平成二十八年熊本地震」の被災者支援の救援金につきまして、京都教区にて募集いたしましたところ、八月二十四日現在で、八、二一三、九〇〇円をお寄せいただきました。皆様のご理解とご支援に対し深く感謝申し上げますとともに、今後も息の長い救援活動

のために、救援金の受付窓口を九月末日まで延長し募集させていただきますので、引き続きのご協力を何卒よろしく願います。※払込については左記郵便振替口座もご利用いただけます。この場合は、救援金である旨を明記ください。

《経常費の早期完納について》

経常費の早期完納締切期日は、二〇一六年九月三十日（金）です。

郵便振替による送金の場合の口座番号・加入者名は左記の通りです。

・口座番号

0960-8-18967

・加入者名

大谷派京都教務所

※払込用紙（振込料教務所負担）をご希望の方は、教務所までお申し出ください。

《教務所員の異動について》

六月二十八日付で、磯野恵昭所長が退職し、翌二十九日付で、錦 秀見所長（前東京宗務出張所長）が着任しました。なお、錦所長は、大津別院輪番・山科別院輪番・伏見別院輪番を兼務します。

同じく二十九日付で、嶋田明仁次長が宗務所財務部へ異動となり、海雄二主計が次長に、明泉周芳主事が主計にそれぞれ役職変更となりました。

また、八月一日付けで、宗務所本廟部より日野大修主事が京都教務所に着任しました。

■ 京 都 教 区 教 化 テ ー マ ■

今いのちがあなたを生きている
 命に感謝 いのちの声 感謝のいのちのめぐり

◆ 教 区 事 業 予 定

9 月 6 日 (火)	13 : 30 ~ 17 : 00	出版小委員会	会場◇教区会館 3 F 会議室
9 月 26 日 (月)	13 : 00 ~ 15 : 00	門徒・推進員研修小委員会	会場◇教区会館 3 F 会議室
9 月 28 日 (水)	13 : 00 ~ 17 : 00	中央門徒戸数調査説明会	会場◇教区会館 2 F 大講堂

◆ 地 区 ・ 団 体 事 業 予 定

9 月 5 日 (月)	15 : 30 ~ 19 : 00	准堂衆会公開講座	会場◇教区会館 2 F 大講堂
9 月 8 日 (木)	12 : 30 ~	坊守会役員一泊研修会	会場◇リーガロイヤルホテル
~ 9 日 (金)	~ 12 : 00	〃	〃
9 月 9 日 (金)	13 : 00 ~ 17 : 00	教区合唱団	会場◇教区会館 2 F 大講堂
9 月 12 日 (月)	14 : 00 ~	伝研自主学習会	会場◇教区会館 3 F 会議室
~ 13 日 (火)	~ 10 : 00	〃	〃
	15 : 30 ~ 18 : 00	大谷保育協会京都支部	会場◇教区会館 3 F 研修室
9 月 14 日 (水)	9 : 00 ~ 16 : 00	坊守会真宗基礎講座	会場◇教区会館 2 F 大講堂
	18 : 00 ~ 20 : 00	声明会	会場◇教区会館 3 F 研修室
	19 : 00 ~ 21 : 00	仏教青年会声明教室	会場◇教区会館 2 F 大講堂
9 月 16 日 (金)	14 : 00 ~ 17 : 00	福島の子どもたちの一時避難受け入れの会総会	会場◇教区会館 2 F 大講堂
9 月 28 日 (水)	18 : 00 ~ 20 : 00	声明会	会場◇教区会館 3 F 研修室

「教区だより」第334号

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

発行日 2016 (平成28) 年9月1日
 発行人 錦 秀見 (真宗大谷派京都教務所長)
 発行所 真宗大谷派京都教務所
 〒 600 - 8164
 京都市下京区花屋町通烏丸西入
 Tel : 075 (351) 5260
 Fax : 075 (351) 5256
 メールアドレス: kyoto@higashihonganji.or.jp
 ホームページ: http://www.k-kyoku.net/

印刷所 (有) 寶印刷工業所

the editor's note

編集後記

旧知の住職が寺報に「亡き人はお盆に返ってくるのではなく、いつも仏として共にいる…と言っても誰も聞いてくれないので、この際それも有り！でだ、わざわざこの娑婆に返ってこられる理由を聴こう。考えよう。」というようなことを書いて送って下さった。▼私がお盆を嫌いなのは、酷暑の中を重ね着をして歩かなければならないから。そして、その中で、教化のむなしさが現前と顕かになっていく。独善となり、この住職のような柔軟さは出てこない。▼存在の必然性が認められない姿とは、これだ。今、お盆真っ最中。

(編集委員・藤枝良太)